

第 1717 回（5 月 27 日）

水田型地帯における農業生産条件の 多様性と地域農業の活性化要因

橋 詰 登

近年、稲作部門に特化した市町村において農業活力の停滞化傾向が顕著に現れており、中でも生産条件の不利な中山間地域で、担い手の不足やそれに伴う耕作放棄地の拡大といった問題が深刻化している。本報告では、これら農業生産の停滞化傾向が顕著な、稲作に依存した市町村＝「水田型市町村」の農業生産構造に生産条件面から接近し、地域の立地条件に応じた農業活性化要因を計量分析によって明らかにすることを課題とした。

このため、まず始めに、都府県の水田型市町村を対象に、最新の生産農業所得統計のデータを用いた主成分分析を行い、各地域の農業活性化状況を計量的に把握した。しかる後に、水田型農業地帯の農業活性化を規定しているとみられる生産条件要因を「農業生産基盤」、「土地利用」、「担い手」、「稲作生産性」、「財政支援」の幅広い視点から 16 指標を選択し、農業の活性化状況とこれら農業生産条件との関連について、都市的地域、平地農業地域、中間農業地域、山間農業地域の四つの地域類型ごとに分析した。

そして次に、各地域の農業活性化に強い影響を及ぼしている生産条件要因を特定するため、主成分分析から得られた農業活性度を説明変数に、各種の生産条件指標を目的変数に用いた重回帰分析を行い、各地域類型ごとの農業活性化要因の解明を試みた。これら分析結果の概要は、以下に要約される。

1) 農業生産条件の地域差は、平地や中間あるいは山間といった地域の立地条件により、農業生産基盤の整備水準、土地資源の活用状況、稲作の収益性等に大きな地域格差が存在しており、平地農業地域における有利性が際だっている。

また、各地域内部においても、地域農業の活性化状況に呼応して生産条件格差が存在する。地域類型ごとに「活性型の市町村グループ」と「停滞型の市町村グループ」を比較すると、平地農業地域では区画整理実施率、上層農家農地占有率、水稻反収等の指標で、中山間地域では、若年農業就業人口比率、稲作依存度、個別経営資金投入密度等の指標でグループ間の格差が大きい。

2) 農業活性化要因の分析からは、総じて稲作への特化が地域農業の停滞をもたらしている（特に、都市的地域で顕著）ことが明らかとなった。他方、稲作部門についてみると、平場の地域では生産基盤の整備や反収の向上が、中山間地域では、米の販売単価の向上や土地資源の有効活用が、それぞれの地域の農業活性化を図っていく上で重要なポイントであることが確認された。

また、各地域共通して、若い担い手の確保が重要な課題であることが改めて浮き彫りになるとともに、制度資金、特に個別経営資金の投入が地域農業の活性化に強く結びついている（特に、山間農業地域で顕著）ことが明らかとなった。

なお、最後に付言するならば、地域農業の活性化は、分析で用いた要因以外にも様々な要因が重なり合って発現しているのであって、具体的な施策の実施にあたっては、これら分析結果を参考としつつも、それぞれの市町村の実態に即した、より有効な施策をそれぞれの市町村がみつけていくことが重要である。